

令和8年9月1日

**北見工業大学は、世界銀行グループと連携し、
永久凍土の融解による道路インフラの課題解決に取り組めます**

北見工業大学は、世界銀行（World Bank）グループがモンゴルで実施する道路インフラ分野の国際プロジェクトに参画し、気候変動に伴う永久凍土の融解による道路被害への対応に取り組めます。

本プロジェクトでは、世界銀行グループが運営する防災グローバル・ファシリティ（GFDRR）東京防災ハブの支援のもと、本学工学部の中村 大教授が日本側コンサルタントチームを率い、技術的助言や人材育成を担当します。また、本学の川口貴之教授、渡邊達也准教授、三鍋佑季助教が参画するとともに、北海道科学大学およびパシフィックコンサルタンツ株式会社北海道支社と連携し、世界銀行グループをはじめ、モンゴルの行政機関や研究機関と協力して事業を推進します。

本学が寒冷地工学および地盤工学の分野で培ってきた研究成果と技術を活かし、永久凍土地域における道路インフラの維持管理技術の高度化や現地技術者の能力向上を支援することで、気候変動に適応した持続可能な社会基盤の構築に貢献します。初年度は、北海道においてスタディツアーや技術ワークショップを実施し、モンゴルの行政機関や技術者との知識共有を進める予定です。

プロジェクトの背景

モンゴル北部には広大な永久凍土地域が広がっています。永久凍土とは、一年を通じて地中が凍結した状態にある地盤であり、寒冷地域の自然環境を特徴づける重要な要素の一つです。

近年、気候変動の影響により永久凍土の融解が世界各地で進行しています。永久凍土が融解すると地盤の支持力が低下し、道路の沈下やひび割れ、変形などの被害が発生するおそれがあります。このため、将来を見据えた維持管理手法や適応技術の確立が国際的な課題となっています。

本プロジェクトでは、モンゴルの関係機関と協力しながら、永久凍土地域における道路インフラの維持管理に関する技術的な助言や知識共有を行い、気候変動への適応力向上を目指します。

北海道で培った技術を世界へ

北海道は、寒冷な気候条件のもとで道路などの社会基盤を整備・維持管理してきた地域です。

北見工業大学はこれまで、寒冷地工学や地盤工学に関する研究を通じて、凍上や凍結・融解による地盤変形の解明とその対策、寒冷地域における道路インフラの維持管理に関する研究を進めてきました。本プロジェクトでは、こうした研究成果や技術を活かし、モンゴルの行政機関や研究機関との技術交流や知識共有を進めます。

また、日本とモンゴルの専門家による交流を通じて、永久凍土地域における道路インフラの維持管理や気候変動への適応に関する知見を共有し、両国の技術力向上につなげていきます。

国際社会への貢献

本プロジェクトは、北見工業大学が北海道で培ってきた寒冷地工学・地盤工学の研究成果を国際社会へ発信し、気候変動に伴う永久凍土融解という地球規模の課題の解決に貢献する取り組みです。

本学は今後も、世界銀行グループや国内外の研究機関・行政機関との連携を通じて、寒冷地域に関する研究成果を社会へ還元するとともに、持続可能な社会の実現に向けた研究・国際協力を推進してまいります。



現地の道路状況



現地視察の様子

(本件問合せ先)

北見工業大学 企画総務課広報戦略係

TEL:0157-26-9116 FAX:0157-26-9122

E-mail: soumu05@desk.kitami-it.ac.jp

(内容についての問合せ先)

北見工業大学 工学部 社会環境系 中村 大

TEL:0157-26-9539

E-mail: dnaka@mail.kitami-it.ac.jp